

令和4年8月2日

加盟校各位

東京都学生弓道連盟
会長 小笠原清忠
委員長 渡辺有哉

【補足】令和5年度リーグ戦・女子部リーグ戦 開催方式の決定経緯に関して

表題の件についてですが、SNS等において本連盟所属の大学生の発言と思われるもので、「令和5年度リーグ戦・女子部リーグ戦」の開催方式の決定経緯に関して誤解・混乱を引き起こす可能性のあるものがあった為、開催方式の決定経緯に関して、本連盟より公式見解と判断経緯に関して補足させていただくことにいたしました。

記

1. 判断理由詳細・経緯

①第3者貸出可能な道場の数的制約

「道場アンケート」の集計の結果、「第3者への道場の貸し出しができる」と回答した大学が17校にとどまり、第I～V週の各週の試合を全て実施するために必要な道場の数を大幅に下回っていた。

②部内引継・事務引継を考慮

部内や学連内の引き継ぎ（来年の運営）を考慮した時に、完全オンラインとしてしまうと、「対面リーグ戦を経験したことがない人が運営し、経験したことがない人たちがリーグ戦に臨む」という可能性があり、運営上の観点より、完全オンラインは将来的リスクが高すぎる判断し「できるところは対面でなるべくやる」という結論に至った

③インカレ大会等との性質の違い

インカレ大会などと異なり、本連盟主催のリーグ戦は約2か月にわたって試合が連続して行われる為、特に第I～第V週の期間内に対面試合において感染者がでた場合、次週以降に不成立試合が大量に発生し、リーグ戦の正常な運営を根幹から揺るがす事態になりかねないため、第I～V週の試合を対面で行うのはリスクが高すぎると判断。

2. 最終判断

第I～V週の試合はオンラインで行うのが適当だが、(上述②)できるところは対面開催でやるのが来年少見を見据えた判断として最適。

以上